



みなみすな

MINAMISUNA

令和4年9月30日
学校だより 10月号
立川市立南砂小学校
校長 浜中 佳規

〒190-0003 立川市栄町2-2-1 TEL042-525-1474 FAX042-529-0940

記憶に残る先生はいますか？

校長 浜中 佳規

私は、社会に出るまで、さらに職業に就いてからも、多くの先生方にお世話になりました。かなり昔のことになりますが、小・中学校においても、様々な先生方にご指導をいただきました。今、この記事をご覧になっている皆様も、きっと記憶に残る先生がいるのではないかと思います。私の場合は、中学時代の音楽の先生です。とにかく情熱あふれる、熱血先生でした。

ある月曜日の朝のことです。全校朝会で校長講話がありました。話の中で、次のようなコメントがあったと記憶しています。「今週、市民会館で、オーケストラ鑑賞教室があります。生の演奏を聴くことができます。音楽が好きな人も嫌いな人も演奏をよく聴いてください。」

その後の音楽の授業でのことでした。音楽の先生は、冒頭話し始めました。

「全校朝会で校長先生が話した内容について、私には疑問がある。

校長先生は、『音楽が好きな人も嫌いな人も……』とおっしゃった。(音楽の先生である)私は、この世の中に、『音楽が嫌いな人』なんていないと思う。音楽は、クラシックだけでなく、テレビやコマーシャルなど、あらゆる所で使われている。生活の中に満ちあふれている。それは、全ての人が好きだということだ……」



もう40年以上前のことですが、今でもはっきり覚えています。

このような先生でしたから、指導には常に熱が入っていました。合唱練習では、生徒全員をグランドピアノの周りに集め、一緒に歌っておられました。その発声は見事なもので、生徒全員の声量を上回るほどでした。特に、リコーダーの指導には長けておられました。有志で結成したアンサンブルは、練習時間が昼休みのみと短時間であったにもかかわらず、全国大会で金賞を受賞するなど、その活躍ぶりはテレビでも放映されました。中学3年の夏休み、先生からクラス全員に「ソナタへ長調」と記された楽譜が渡されました。リコーダー練習の宿題でした。十六分音符が所々にあり難曲でしたが、先生の姿が思い浮かび、毎日のように練習に励みました。

校長講話に対して、授業中持論を語る教師は当時珍しかったかもしれません。「音楽が嫌いな人なんていない」は、少々極論かもしれませんのが、その先生の熱意やパワーには圧倒されました。教育現場は時代とともに大きく変化していますが、教育に対する情熱は、いつの時代になつても貴重です。音楽の先生を思い出しながら、熱い気持ちをもち続けたいと日々感じています。